

令和 6 年度 萩間小学校の経営構想

牧之原市立萩間小学校長

I 歴史と伝統

本校は、明治 6 年渥美源八郎氏邸内に男神学校が開設されたところに起源を發し、昭和 46 年に萩間東・西小の統合により現在の萩間小学校の基盤ができた。昨年度、150 周年を迎えた歴史ある学校である。

萩間小学校や子供たちの教育活動を見守る「萩間明るい子供を育てる会」は、20 年余の着実な継続を経ており、年に 2 回 60 人ほどのメンバーで理想的な学校支援体制を整える話し合いが行われている。学校支援では、豊かな体験活動（さつまいも栽培、お茶摘み、稲作、花壇づくり等）が毎年位置づけられることで、活動が安定的に行われると共に、学校支援ボランティアが主体的に動くことができている。

また、FBC 花壇コンクールに毎年参加し、地域の支援も受けながら子供たちは草花の栽培を通して自然を愛する心を培ってきた。毎年、県トップレベルの賞を受賞しており、学校と地域の誇りとなっている。

令和 2 年度からコミュニティ・スクールを導入し、学校運営協議会によって学校経営を地域と共に行っている。既存の「萩間明るい子供を育てる会」を地域学校協働本部と位置づけ、萩小特有の体験活動がさらに充実するとともに、地域に学校を開き、皆で子供を育てる仕組みが展開されている。多くの地域の方が学校の教育活動を支えてくださっていることで、教職員が人事異動で入れ替わっても、萩間小の伝統をよりよく受け止めた学校文化が根付いている。

II 本校児童の姿

全校児童 143 人、通常学級 6、特別支援学級 2、計 8 学級である。

家庭、地域を含めて、多くの大人に愛されている基盤を持ち、屈託のない笑顔を見せる子供が多い。また、豊かな体験活動が根付き、多くの温かな人との関わりを重ねていることも子供たちの心の成長に機能している。

一方、子供一人一人に目が行き届く環境でありながら、単学級による人間関係の固定化というデメリットもある。そのため、例年「主体性」に類する資質・能力が課題と挙げられている。また、特別な支援を要する子供も少なくない。

こうした実態から、生徒指導の軸に「自己肯定感の育成」を置き、児童理解に基づいた発達支持的生徒指導を重視した取組を実践している。

そして、昨年度重点目標を「自分から やってみよう」と変更し、様々なことに教職員も子供たちも挑戦する意識を高めてきた。諸活動だけでなく、授業においても少しずつ主体的な子供の姿が見られるようになってきている。

III 学校教育目標

自ら学び 共に伸びる

新しい価値や文化を創造していくこれからの時代を生きる子供たちは、多様性を認める力やコミュニケーション能力を育み、様々な人とかかわる中で違いやよさを認めていく力が必要となる。自分の足で立ち自分の頭で考え、他者と対話する中で課題に気づき、皆で解決する学びの楽しさや喜びを味わわせたい。そのためにも、自己理解・他者理解に基づき、優しさとしなやかさを身につけた力強い「個」の育成をめざし、自他の考えをしっかりと送受信できる「議論する力」を育成していく。一人一人が自ら学び、互いのよさを認め合い、共に伸びていく学校でありたい。

IV 経営の理念

「人生の土台」をつくる学びの場としての学校

これからの学校教育の使命は、変化の激しい社会を生き抜く、未来の創り手となるための資質・能力を子供たちに確実に育むことである。「令和の日本型学校教育」が謳われ、個別最適な学びと協働的な学びの実践を通して、子供たちが自分のもつ能力を最大限に発揮し、自己実現を図りよりよい社会を築くことができるようにすること、つまり日本発のウェルビーイングを向上させることが求められている。

そして、学校は、規範意識や道徳性、社会性、健やかな心身を養うための土台となる「学びのふるさと、生き方のふるさと、心身の健康のふるさと」の場でもある。地域の教育力と与えられた諸条件を生かし、授業や日々の教育活動を通して子供の育ちを確かなものにしていかなければならない。

子供たちに必要な資質・能力を育むためには、教職員一人一人が子供たちの未来を見通す広い視野をもって教育活動を展開することや、学校と家庭・地域が目標を共有し連携・協働することが重要となる。そこで、コミュニティ・スクールにより、学校と地域が教育目標を共有し、共に学校経営を行うことで教育課題の解決と自己肯定感の高い子供たちを育てていきたい。また、多くの人々やもの、こととつながる教育活動の展開により、キャリアの力を伸ばし、自己実現能力を高めていきたい。

地域の教育力を活かした本校の特色ある教育活動は、学び続ける力の育成とともに、「人生の土台」として子供たちの生きる力を支えていくこととなる。学校は、人生の土台をつくる学びの場となる教育環境を整え、子供が自らの人生を切り拓いていくたくましさ、地域社会に貢献する意志と実践力を育むことに全力で取り組みたい。

V 経営の重点

多様性や共生社会がキーワードとなるこれからの社会、また、想定外のことが突然起こりうる世の中を自分らしく生きていくためには、次の力が必要となる。

- 自他を大切にする力 ○ 自分の考えをもつ力
- 自分を表現する力 ○ チャレンジする力

自分も他の人も大切にしながら、周囲の意見に左右されることなく自分の考えをしっかりと持つ意思と、自分の考えや事実を語るができる力が重要である。それが「議論する」力にも通ずる。そして、失敗を恐れず何事にも意欲的に挑戦することで柔軟に対応する力が育成されていく。自己肯定感の育成を基盤に、必要な力を育成できる活動に取り組みたい。

牧之原市の教育は「キャリア教育を軸にした小中一貫教育」を基本方針としている。「アースランチ」や「命と防災」のプログラムに取り組むと共に、起郷家教育で育む基礎的・汎用的能力の育成に基づいた取組を進めていきたい。

また、「教職員の幸福度が高まることで子供の幸福度を高める」という考え方の下、教職員自身が学び続け、自信をもち組織的に職務を遂行していくこと、ライフワークバランスがとれる環境を整えることを大切にしていきたい。

1 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業、キャリア教育を軸とした小中一貫教育を見据えた教育活動を推進する。

- (1) 笑顔で登校したくなる学校であり、学ぶことが楽しい授業を追求する。
- (2) 各教科等の特性に応じた見方・考え方を追究し、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。
- (3) 起郷家教育で育てたい資質・能力をおさえた教育活動を展開する。
- (4) 小中のつながりに視点をおき、相良地区小中一貫事業を推進する。

【数値目標】 ☆学校が楽しい	90%以上
☆授業がわかる	85%以上
☆自分の考えをもつ	90%以上
☆わかろうとして聞く	90%以上

2 発達支持的生徒指導の理念をもち、自己肯定感の育成を基盤に、未来を生きる子供たちに必要な資質・能力を育成する。

- (1) 自分も人も大切にする気持ちをもち、自己表現できる。
- (2) 競い合い、励まし合って互いの向上を目指す活動や場をつくる。
- (3) 子供の主体的な取組を支援し、課題解決能力の向上をめざす。

【数値目標】 ☆自分にはよいところがある	85%以上
☆伝え合い授業や活動を進める	80%以上
☆励まし合い競い合い協力する	90%以上
☆目標をもち挑戦する	85%以上

3 コミュニティ・スクールが機能し、豊かな体験による学びと成長を実感できる教育環境づくりに取り組む。

- (1)地域の自然・人・もの・ことと関わる豊かな心を育む教育環境、豊かな体験による学びの場、磨き合う場を設定する。
- (2)地域と学校運営を協議し、地域とともにある学校を推進する。
- (3)家庭との懇ろな関係を築き、ともに子供を育てる。

【数値目標】 ☆地域に教わり体験する	90%以上
☆地域が好きになった	90%以上
☆CSは教育活動に役立つ	95%以上
☆家庭での会話を大切にする	90%以上

4 子供の幸せを願う温かさ・魅力のある教職員が、磨き合い支えあって組織として機能し、子供たちの力を育成するにふさわしい学校教育のあり方を追求・実践する。

- (1)教職員も所属と承認欲求を互いに満たし合い、自己実現に向かう。
- (2)二部、学年部の仲間との報・連・相を機能させる。
- (3)「働きがい」を重視し、タイムマネジメント・タスクマネジメントの能力を高める。

【数値目標】 ☆専門性を磨き自己の成長を実感	70%以上
☆仕事の効率化がなされている	80%以上

VI 重点目標

自分から やってみよう

R5年度「自分から やってみよう」の重点目標を掲げ、「まずは、やってみよう」「失敗しても、やってみよう」「みんなで、やってみよう」等の目指したい子どもの姿に向かって、“まずはやってみよう”と、子ども自ら湧き出したものを大事に価値つけてきた。特に、特活では委員会活動を大切にし、常時活動だけでなくよりよい学校にするためにどのような活動ができるかを考えて、様々な取組に挑戦した。縦割り活動が活発化したり、「挑戦する」ための機会をもったりし、関わることの楽しさや達成感を味わうことができた。

本年度、重点目標を継続とするが、「やってみよう」の文言にこめられた願いやつけたい力の意味を明確に示した。課題を自分事として主体的に捉え、友達と共同して解決することができる実行力やコミュニケーション力をつけること。課題解決や目標達成のために継続して挑戦する姿勢。そして、失敗を受け止めてもう一度挑戦しようとするレジリエンス力である。

個の見取りや価値づけ、教職員や地域の方々、友達同士の関わりなど、日々の実践を積み重ねることにより、自他を大切にし、よりよい関わりの中で自己表現できる力強い個を育成していきたい。